

主題「情報社会の危機から身を守る」

危険なサイトへの対応の仕方を知ろう

さいたま市立つばさ小学校

1. ねらい

- (1) 情報モラルの意味を知り、実践していく態度を養う。
- (2) 危険なサイトへの対応の仕方を理解する。

2. 指導計画

- (1) インターネットの良いところを話し合わせる。
- (2) インターネット上のトラブルを話題に取り上げ、「情報モラル」の意味を知る。
- (3) ベネッセスクールオンラインの『はむはむのおんらいん教室』を使い、疑似体験を通して危険なサイトの怪しい点を考え、その理由をまとめる。
- (4) 疑似体験した危険なサイトを振り返り、適切な対応を学ぶ。
- (5) 自分たちでできることを話し合う。

3. 授業実践例

- (1) インターネットの良いところを話し合う。
 - － 1－なぜ多くの人たちがインターネットを利用しているのか、その理由を考えさせる。
インターネットには、いい点だけしかないのか児童に問いかけ、インターネットの悪い点に目を向けさせる。
- (2) インターネット上のトラブルを知り、「情報モラル」の意味を知る。
 - いい点ばかりに感じるインターネットにもトラブルが起きていることを知り、「情報モラル」の意味を理解させる。
- (3) 実際にトラブルを疑似体験させる。
 - － 1－ベネッセスクールオンライン「はむはむのおんらいん教室」を活用して、どのようにトラブルに遭うのか疑似体験させ、簡単に被害に遭うことを知る。
 - － 2－メールによる被害だけでなく、インターネットの被害も続けて体験し、さまざまところに落とし穴があることを理解する。
- (4) 実際に自分の身に起きた時にどうすればいいのか、対応の仕方を考える。
 - － 1－きちんと対応すれば、トラブルを事前に回避できたり、対処したりすることができることを理解させる。
- (5) 自分たちでできることを考える。
 - － 1－自分でできることを考えるだけでなく、知らない人たちにできることがないか、広げて考えさせる。

4. 成果と今後の課題

普段たくさん利用するインターネットに、たくさんの危険があることに児童たちは驚き、しっかりとその怖さを実感することができた。また、自分たちができることは何か話し合うことにより、危険から自分の身を回避しようとする意識を高めることができた。この後、児童たちに情報モラルを呼びかけるポスターなど作成したが、掲示していき、みんなの意識を高めていきたい。